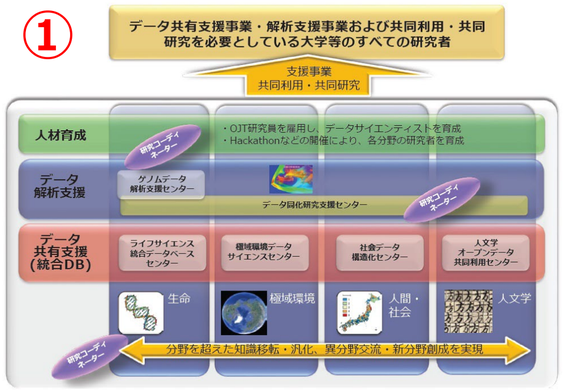
ROIS-DSにおける研究コーディネーターの活動紹介

馬場 知哉（データサイエンス推進室）

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
データサイエンス共同利用基盤施設
Joint Support-Center for Data Science Research (ROIS-DS)

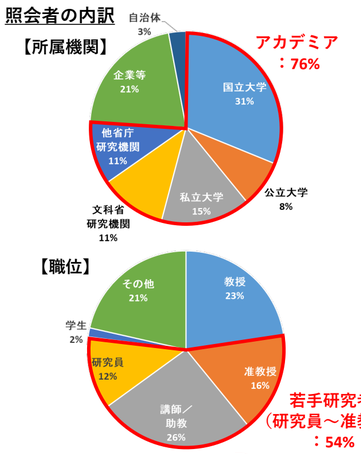
- データサイエンスの略「DS」の文字を地球（地軸）と同じ傾き（23.43°）にDNAのようなモチーフ
- 傾いているけれど、安定を感じるデザイン
- 周囲は「自由でありながら規則的に回り続ける」ROISの４つの研究所を表現
- 枠に収まらず、形を変えながら発展する様子を、親しみのあるシルエットにして社会貢献する組織をイメージ

① ROIS-DSにおける研究支援と研究コーディネーター

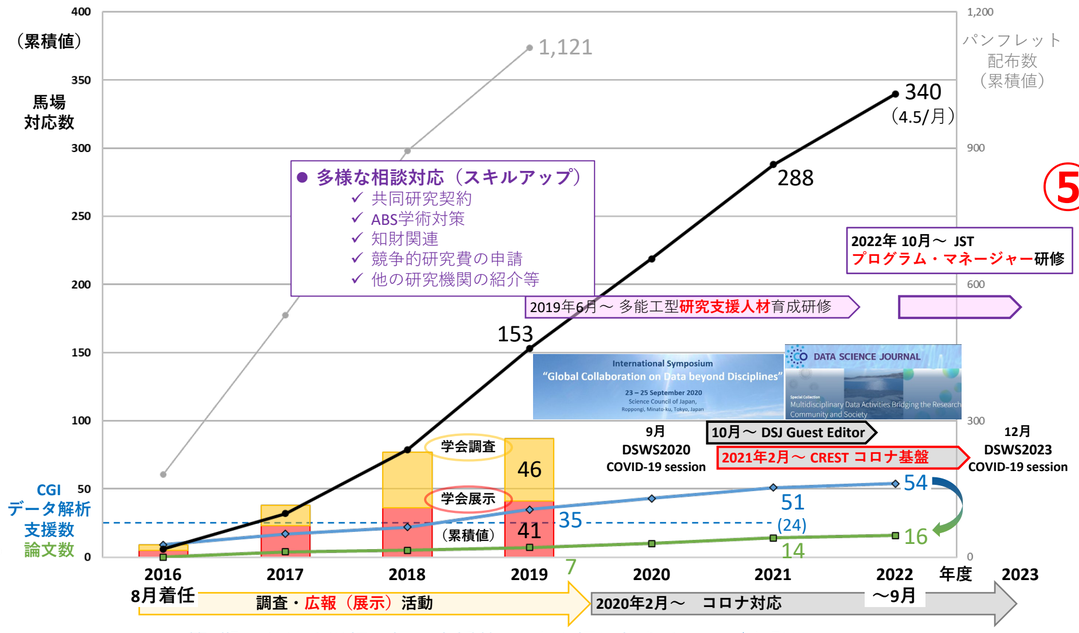


- **研究コーディネーターは３者３様**、各専門分野での活動を展開中
- **本ポスターでは、馬場に関する活動紹介**
- **ゲノムデータ解析支援センター（CGI）**を中心にデータサイエンスの推進
  - 広い研究分野でのゲノムデータ解析支援の**ニーズの発掘**
  - 学会等での**調査・広報（展示）活動**
  - どのような問い合わせにも真摯に対応
  - 研究者、ROIS-DS関係者との密なコミュニケーション

② 活動の概要（2016～2022年度）

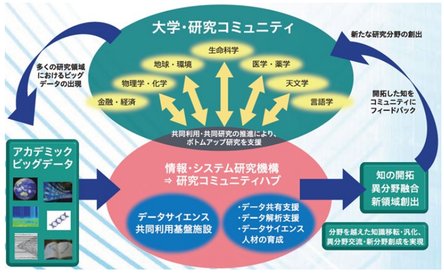


共同研究の「枠組み作り」から「論文化」まで「研究支援の支援」（マネジメント）



- CGIの第3期における当初目標の支援数(24)を大幅に超えるニーズを発掘
- コロナで学会展示等の広報活動が制限された中でも、口コミ・紹介等を通じた問い合わせ

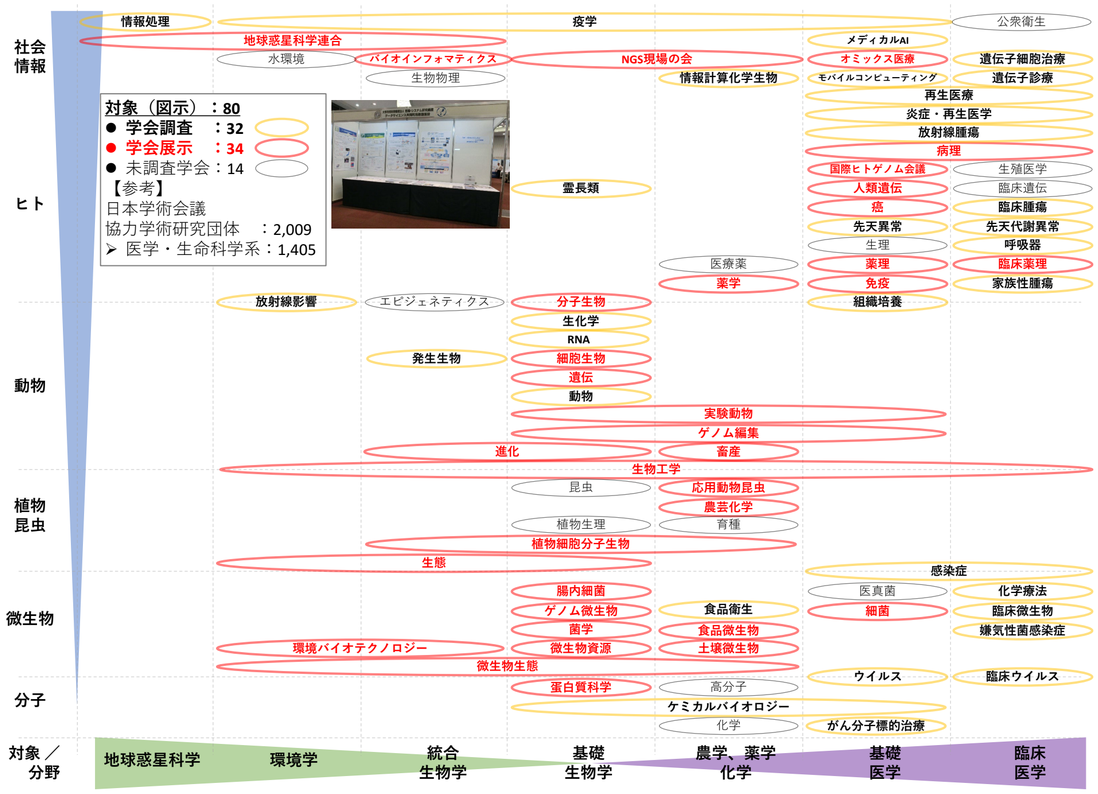
⑤ データサイエンスの推進拠点としてのROIS-DS



【より広いデータサイエンスの発展をめざす】

- **課題解決に必要な新しいデータサイエンスの構築に向けた提案**
- **広い視野で人と人とを結び未来を開拓する研究コーディネーターの役割**

③ 調査、さらには展示をした学会等の対象／分野領域（2016～2019年度）



対象（図示）：80
- ● 学会調査　：32
- ● 学会展示　：34
- ● 未調査学会：14

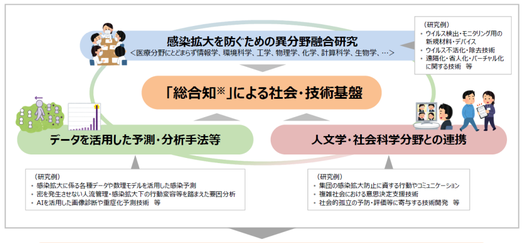
【参考】
日本学術会議
協力学術研究団体　：2,009
➢ 医学・生命科学系：1,405

④ データサイエンスによる社会課題解決への取り組み（コロナ対応の例）

文部科学省　令和３年度　戦略目標

「総合知」で築くポストコロナ社会の技術基盤

異分野融合により、将来のパンデミック等に備え新たな社会の基盤となる技術シーズの創出を目指す

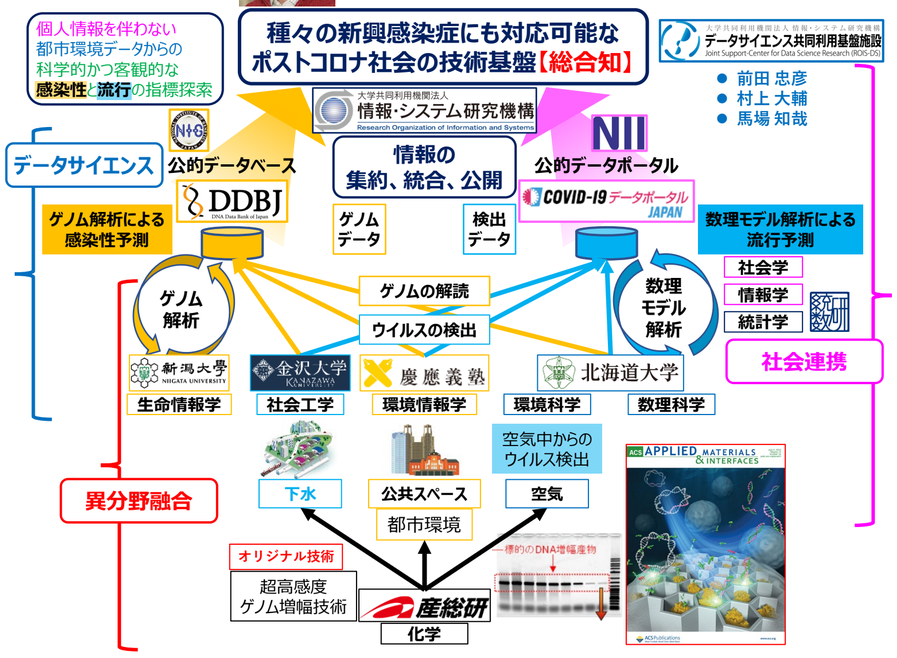


目指すべき社会像
- パンデミック等に対して**安全・安心**を担保しつつ、**日常生活や経済社会活動を維持・発展**できる社会
- **分野を超えた研究者の協働**が一般化することで「総合知」の創出・活用が進み、**社会課題の解決**が促進される社会

※ 社会的価値を生み出す人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」（科学技術・イノベーション基本計画において（言葉変更））

JST 戦略的創造研究推進事業（CREST）
コロナ対策臨時特別プロジェクト（CREST コロナ基盤）
申請：150件
採択： 10件

2021年2月～　CREST コロナ基盤　～2024年3月

【超高感度ウイルス計測に基づく感染症対策データ基盤】
研究代表者：有田 正則
情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所

研究者26名／13研究機関
（海外：6名／3研究機関）